

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 1月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	1470200740
法人名	医療法人 ゆりの会
事業所名	グループホーム ゆり苑
所在地 (電話番号)	横浜市神奈川区六角橋 1-4-3 (電話) 045-439-7788

評価機関名	ナルク神奈川第三者評価事業部
所在地	横浜市港北区新吉田東5-76-35
訪問調査日	平成20年 1月 23日

【情報提供票より】 (平成20年1月7日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	12 人
常勤	3 人
非常勤	7 人
常勤換算	5.2 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建て	1 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	領収書により精算 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(195,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	500 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1	3 名	要介護2		1 名		
要介護3	2 名	要介護4		1 名		
要介護5	1 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	79.2 歳	最低	65 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	齊田医院、菊名記念病院、矢吹歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>◇ 当事業所は、東急東横線の白楽駅から徒歩2分の商店街に立地し、利用者がショッピングや散歩を楽しめる便利な環境にある。</p> <p>◇ 「医療法人 ゆりの会」の傘下であり、同一グループの齊田医院が隣接しており、院長が定期的に来診して利用者の健康維持と治療にあたっている。このような環境が、利用者、及び家族には大きな安心感を与えている。</p> <p>◇ 利用者が持っている能力を生かして、自由に自分の好みに合った生活ができるよう支援することに徹していおり、ゆったりと伸びやかに暮らしている様子が確認できた。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・前回、指摘された衛生管理マニュアルの整備はこれからであるが、自分の家庭と同様に清潔整頓を重視して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>・自己評価は全職員で取り組み、管理者が全体の取りまとめを行った。評価項目についての理解不足で、未記入箇所もあったが、管理者との面談で理解を深め、自己評価の結果得られた気づきを、今後のサービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>・これまで、運営推進会議を実施するまでには至っておらず、自治会に話をして準備に着手した段階である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>・近隣からの利用者が多く、交通、ショッピングの便がよいこともあって、家族が訪れる頻度が多く、苦情・相談も気軽に話せる人間関係ができています</p> <p>・収集した情報は、連絡簿で職員に伝えると共に、職員会議で検討し共有化している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>・自治会の一員として管理者が参加している。高齢者がいる地域の方には、認知症者への対応の仕方や、家庭でのケアのあり方などの相談に応じている。</p> <p>・幼稚園児が来訪したり、お祭りのとき「みこし」がゆり苑の前でパフォーマンスをするなど、地域住民との交流を楽しんでいる。</p>
重点項目④	

1

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・「利用者の自由」、「好きなことを決める」、「それを支援する」を理念として、日常のケアに活かすことを目指している。 ・利用者全員が、地元の出身で地域との馴染みが深く、このため、特に地域との繋がりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・管理者が、職員と一緒に日常のケアに取り組む中で、理念の共有を図っている。 ・毎日、朝夕のミーティングや職員会議で、提供しているサービス内容が理念に沿っているか否かを確認し、具体的な対応を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・管理者が、自治会に加入しており、地域の方に認知症への対応や家庭でのケアなど、日常の相談に応じている。 ・幼稚園児が来訪したり、お祭りとき「みこし」が事業所の前でパフォーマンスするなど、地域との交流を楽しんでいる。	○	・家族やボランティアの協力を得て、利用者が地域の行事に参加できるように、取り組まれることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価票の作成に全職員で取り組み、管理者がまとめた。 ・評価項目に対する理解不足で未記入の箇所もあったが、評価項目を読み込み、管理者との面談で理解を深めて、気付きを改善につなげている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・実施するまでには至っていない。 ・自治会に話をして準備に着手した段階である。	○	具体的な日程を決め関係者の協力を得て、実施されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・管理者が区役所に出向いたり、区の担当者にホームに来て貰い密接に連携を図っている。 ・事業所として、地域における高齢者福祉のセンターになることを目指している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族の面会頻度が多く、来訪時に日々の暮らしぶりや健康状態を事業所から報告している。家族とは何でも話し合える関係ができています。来訪できない家族には電話で報告して要望を聞いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族からの意見やちよつと気になること、家族の利用者への対応の仕方など、個々の家族と気楽に情報を交換している。 ・管理者がその情報を基に、職員会議で検討し、事業所の運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・離職者の補充が難しいので職員の移動は極力行わないよう努力している。 ・全職員が利用者と良好な関係を築いており、離職者が出た場合は長期休暇を装い、利用者が不安感を覚えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・人的な余裕がないため外部研修には参加できず、管理者による現場に即した実地研修を徹底している。 ・また、各種の研修資料を収集して、現場の実情と教育方針に基づき、独自の研修資料として職員に配布し、介護技術のレベルアップを図っている。	○	・職員を交代で必要な外部研修に派遣できるような体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・管理者が近隣のグループホームと相互に意見交換し、ホームが提供するサービスの質の向上に努めている。 ・新規に開設した事業所の研修員を引き受けたこともある。 ・他のホームに職員を派遣しての交流は、人員に余裕がなく行っていない。	○	・近隣のグループホーム間で、職員同士が交流ができる環境作りを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居希望者には、管理者が家庭訪問して本人や家族の要望や不安を聞き取り、利用者の理解に努めると共にホームを見てもらい、納得してから入居してもらっている。(決定から入居まで2～3ヶ月のこともある) ・新しい利用者が先輩と馴染むまでの間、職員は特に入居者の言動に注意して対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・アセスメントで各人の好み、生活パターンを十分把握しており、トランプやオセロの好きな利用者とは、職員と一緒にゲームを楽しむこともある。 ・職員を交えて何人かでおしゃべりしている利用者など、のんびり自由な雰囲気の中で過ごしていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントで把握した利用者の生活歴や趣味を基に、管理者、職員が、入居者一人ひとりの話し相手になり、日常の話しをとおして、利用者の意向や思いを把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・介護計画書は、アセスメントの内容をベースに、本人及び家族の意向を充分把握して作成している。 ・家族との面談の結果は、その都度連絡簿で職員に徹底して共有化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画は6ヶ月毎に見直し、利用者並びに家族に説明して確認印を得ている。 ・なお、見直し以前に利用者に関心の変化があった場合は、その都度家族の了解を得て介護計画を改定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・入居前の掛かりつけ医への送迎など、利用者に最もよいと思われる支援を、事業所の多機能制を活かして柔軟に対応している。 ・家族からの相談に応じて、随時介護に関する相談に応じている。また、認知症の知識や認知症者への対応などの指導も行っている。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前から事業所の協力医量機関(斉田医院)を掛かりつけ医にしている人が多く、医療と一体になったケアが、本人、家族に安心感を与えている。 ・他の医療機関を掛かりつけ医にしていた利用者には、従来との関係も大切にして、その通院の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人、家族、医師との連携を密にし、職員全員で認識を共有して、可能なかぎり終末期に向けたケアをする姿勢で対応している。 ・亡くなる数週間前まで、ホームで対応した事例もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員とは、雇用契約時に個人情報の保護について、覚書を交わしている。 ・職員には、自分の身に置き換えて考えるよう指導している。訪問当日の観察でも、利用者の尊厳を傷つけるような言動は見受けられなかった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その人らしさを出してもらうために、個人の思いや希望を実現できるよう、積極的に利用者に話しかけている。 ・食事の後片付け、掃除、洗濯物のたたみなど、自宅でしてきたことをしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・職員は、利用者一人ひとりの好みを把握しており、自分の希望を言える利用者には、夕食時希望をかなえられるよう配慮している。 ・職員は、利用者と一緒に食事をし、後片付けをするなど、食事を楽しみながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・入浴日は、1階の利用者が火・金曜、3階の利用者は、月・木曜の週2回とし、午後2時～4時の間に入浴してもらっている。 ・基本パターンは決めているが、希望があれば柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・利用者が今できることを毎日のケアの中で把握して、その人らしい暮らしができるよう支援している。 ・各自の自由意志を尊重して、利用者の役割までにはしていない。 ・トランプの相手、折り紙、手芸、話し相手など、利用者ので欲しいことを察知して対応している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の外出には、訪問回数が多い家族の応援を得て対応しているが、現状、家族の要望を満足するまでには至っていない。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口を除いて、館内は完全開放しており、職員が利用者の日常生活を注意することで、これまでに大きなトラブルは発生していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署の指導は受けているが、最近2年間は消防訓練は行っていない。なお、消火器は各フロアに常備している。 ・災害防止マニュアルの整備は今後の課題である。	○	・最低年1回、定期的に職員・入居者を交えて、消防訓練を行うよう希望する。 ・災害防止マニュアルの整備を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・摂食量・水分摂取量のチェック表で、一人ひとりの状況を把握し、各人の状態に応じて食事量を加減している。 ・食材は職員と利用者が調達し、夕食については利用者の好みを反映するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・施設内は清潔で、異臭や不快音は感じられず、テーブルの配置やテレビの音、照明も適切であった。 ・折り紙や絵手紙、書、短歌など利用者の作品が飾られており、生活感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室は、利用者と家族の希望に沿って、レイアウトしてもらっており、小さな仏壇や好みのカーテン、タンスなど各人各様の馴染みの物が持ち込まれていた。		

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者全員が六角橋の近隣出身であることから、入居者にとって馴染みのある地の利を生かして、例え自分の家から引っ越してホームでの生活になっても、入居者の今までの街との繋がりが継続して意識にのぼるような暮らしが感じられるような関わり、働きかけを行っている。	○	商店街という活気のある雰囲気を日常に取り入れて、入居者自身が生きていることがプラスに感じられるような雰囲気を地域の人たちの協力を得て作り上げていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	1.入居者の自由の確保,2.自己決定 3.入居者への自立の援助を3つの柱とした基本理念を管理者、職員はいつも意識して日々の関係作りに努めている。理念の共有については、申し送り簿、連絡簿等を通して日々気づけるような工夫をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の来苑をご家族の時間の許す限り実現していただき、認知症という病気を抱えて地域で生きていくことの意味を理解していただけるような働き掛けを積極的に行っている。	○	家族によって来苑の機会回数が異なり、来苑回数の多寡により理念への理解度に差が出ることは事実です。この穴埋めを双方向の通信で少しずつでも改善できればと考えています。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	商店街の中の立地ということで、毎朝の道路の清掃、ごみ出しで挨拶をして世間話をするといった日常があります。隣近所との付き合いは切っても切れないような関係になっています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、商店会、行事、地域活動には積極的に参加をしています。特に最近では地域の幼稚園との地域活動交流が盛んになってきました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>管理者が中心になって、高齢者を抱える地域のご家族の相談にのっています。来苑、電話での相談、必要とあれば他サービスの紹介や取繋ぎ役も実施しています。</p>	<p>○</p> <p>この地域は高齢者が多い割には、サービスの拠点となる地域ケアプラザ、地域包括センターから距離があります。地域の高齢者の役に立てるような施設として更なるサービスの拡大を図っていききたいと考えています。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価表と向き合い自己評価に取り組む職員が少なくなってきたことに少なからず淋しさと不安を感じます。評価の意味を理解しなければならないことは痛感しています。自己評価、外部評価がその場限りの取り組みにしかになっていない部分もあり、改善の余地は大いにある。</p>	<p>○</p> <p>左に同じ</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は実施しておりません。自治会への説明は済みましたが、その先の時間的余裕が生み出せない状況です。</p>	<p>○</p> <p>年明け、今年度中に1回は開催しなければならないと考えております。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>困った時の行政頼みといった関係で、質の向上というよりも、質の確保、低下を防ぐのが精一杯な状況です。</p>	<p>○</p> <p>建設的な関係作りを意識して作っていきたく、その為にも運営推進会議の早期開催に向けて時間を作らねばならないと考えます。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者が中心となって職員へ情報、知識の伝達を行っている。その活用については、過去に3人の入居者の成年後見制度の利用に結びついている。</p>	<p>○</p> <p>研修の機会があれば、できる限り職員を派遣して制度理解に努めたいと考えます。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、必要な知識が身につくように職員に話しております。また入居者の生の声を大切に必要とあれば、事実関係を明らかにし再発の防止に努めています。	○	虐待の中でも問題は心理的虐待です。この点については施設が存続し、入居者がいる限り、管理者として職員に話し続けていかなければならないと考えています。
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時以降も契約内容の再確認を家族との間で実施しており、ホーム利用に当たって行き違いのないように努力しています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	入居者から寄せられる意見、不満、苦情は管理者が中心となって処理しています。特別機会を設けているわけではなく、入居者の意見、不満、苦情は、いつでも口に出せるよう雰囲気作りに努めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	1月に1回は必ず家族に報告しています。方法としては、家族の来苑時、来苑のない場合は電話で連絡、報告を入れています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それを運営に反映させている	上記の項目同様に家族の意見、不満、苦情を吸い上げています。また館内には苦情に対しての受付先(内部、外部)を明記しています。内容は即日話し合い、または連絡簿を通して改善を指示しています。	○	改善が完全に実施できているかのモニタリングがまだまだ不足しており、その点についての改善努力をしていきたいと考えています。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を日々聴取し、吸い上げた意見、提案については実施に移すと共に、各職員に戻し再考を促すこともあります。	○	運営者との意見交換の機会が少ないことが今後の課題となります。この点については運営者に参加を求めようとしています。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、家族を中心に運営しており、不都合なことが極力ないように最善の配慮を加えております。勤務調整による職員の負担増が入居者へのサービス低下に繋がらないように管理者、常勤スタッフが対応して注意しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者との相談、協議しながら、入居者への支援が円滑に行えるように職員を配置しています。離職について良い策がないのが現状です。しかし入居者がダメージを受けないような方策は逐次実施しています。		
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と相談、協議しながら人財の育成に努めています。外部への研修に参加させる機会は乏しいが、内部研修として、職員に課題を与えながらトレーニングしています。研修方法としてはメンター制度を取り入れたいと考えています。	○	当苑で実施したい研修は、メンター制度で人的魅力のある職員を育てることであり、この制度を早く軌道に乗せたいと考えています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームを尋ねて入居者の様子や実施しているサービスを見学させていただき、意見交換の場を毎月設けています。他のホームを見学することで新たな気づきが生まれ反省の場としても大いに役立っている。	○	他のホームとの職員間の交流が非常に少なく、この点を改善することで職場の雰囲気が変わる可能性が高いと感じています。近いうちにグループホーム職員交流を実施していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	一人ひとりが抱えるストレスを、全体を通じて緩和しようとする姿勢が却って新たなストレスを生んでしまうこともあり、取り組みの難しさを感じています。	○	離職の要因のひとつにストレスがあり、大きなウエイトを占めています。職員間で負担とならないよう交流を持てるよう工夫したいと考えます
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が実施しているサービスや勤務状況を運営者、管理者が知り、理解していくところから職員への働きかけが始まるものと考え、個別に面談しています。	○	認知症という病気への理解と介護の必要性について学び、介護者自らを振り返ることができるように対応していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居を希望された時から本人と話し合い、困っていること、不安なこと、求めていることを聞くように努めている。そしてホームで安心した暮らしを本人と職員と一緒に作っていくようにしていただいています。毎朝5分から長い時には30分、個別に入居者との話し合いを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望時に家族と話し合っています。職員が家族と一緒に考えていく姿勢を家族に提示することで、少しでも安心を感じ取っていただけるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時における初期対応は非常に重要と考えています。入居を希望される時にも、状況によっては他のサービスを使うことで入居しなくても良いようなケースもあります。その時には次に繋がるようなサービスを紹介して入居を待っていただくような初期対応もあります。そのように努めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、何度かの相談と面談を繰り返しながら、入居者、家族が納得、安心した状態で入居に至るように努めています。	○	入居者間の隙間を職員の関わりで埋めていき、暮らしやすい環境を作ることを目指しています。
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者はグループホームは家庭でなく、共同生活の場であることを理解しています。入居者、職員が相互の信頼関係を基本に、認知症高齢者が人生の振り返り時期を安心して過ごせるように努力しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員との相互の信頼関係を基に、入居者の終末期の共同生活が成り立っていることを理解、確認し合えるような関係作りに努めている。 職員は、家族の思いをきちんと受け止め共感し、一緒に入居者を支えていく姿勢を示していくこととしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族との関係があまりよくないようなケースであっても、離れて暮らすことによりお互いを見つめなおす機会としての場として機能している場面もある。その点も十分考慮した関係作りに努力している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多くの情報をもとに支援を実施している。家族には金銭的、時間的、心的負担等があり、一概に本人を中心に支援だけを考えると思わぬ方向に展開してしまうケースもありました。	○	本人の求める支援について、家族、職員との話し合いをこれからも継続していくこととします。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに関わり合い、支え合えるように努めている	入居者間のことは入居者間に任せることを基本に、入居者が安心して暮らせるように入居者間の出来事に職員が興味を持ち、更に良い関係作りができるように職員は支援をしています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続性が必要な入居者、家族には支援をしています。しかし、入居者、家族が支援を希望しない場合は無理に支援を実施していません。	○	支援を希望しない家族は、なぜ支援を希望しないのかを考えていかなければならないと考えます。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接、思いや、希望があったときには、十分配慮しています。仮に、思い、希望が伝えられないケースには、今までの様々な情報をもとに、本人らしさを表出できるような支援に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一定の書式を通して入居に至るまでの期間の本人の生活履歴を情報としていただき、また入居後も本人や家族からお話をお聞きしながら把握に努めています。	○	いただいた情報をホームとしてその人に生かしていく手段、方法がいまひとつ確立されていない。把握した情報を職員全員で活かしていきたいと考えています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員によって細部まで目が届く人もいれば、マニュアルとおりの観察で把握はしていても内容に乏しい職員もいます。また申し送る内容も送り手、受け手で微妙に差があり、職員研修の必要性を大いに感じております。	○	入居者の一日の過ごし方に大きな変化のないないことが、職員の観察力を鈍らせているように思われます。入居者に対し新鮮な目を持ち続ける前向きな職員を育成していくことが急務である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活での気づきや入居者本人からの求め、また家族の要望等を総合的にまとめ上げ、本人の言葉で「#1・・・したい」「#2・・・でありたい」「#3・・・してほしい」等書き換えてケアプランとしている。	○	作成したケアプランの項目ごとに、日々の働きかけを記録に残すことにしているが、全てを記録するまでには至っていない。記録していないのは、第三者から見てプランを実施していないと取られることを再度認識していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間内でのケアプランの見直しは、入居生活の中で変化の度合いの大きい人を中心としている。日々の変化に即したケアプランは、小プランとして短期間で評価、モニタリングを繰り返し行いながら実施している。</p>	<p>○</p> <p>期間を設定して立案したケアプランの中で、期間を過ぎてモニタリングしているものがあるため。期間内での評価を徹底していくこととする。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日の個別記録にその日に実施したケアの内容やその結果、また新たに気づいたこと、その対応を記録として残すようにしている。計画作成担当者は様々な情報と実践結果、モニタリングを通してケアプランに反映している。</p>	<p>○</p> <p>職員間での情報交換の方法に工夫が必要と考えています。シフト勤務のため、記録だけでは不十分なところがあります。個別の情報についてはホワイトボードに伝達内容を貼り付けて職員に署名確認していきたい。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>個別性の多様な対応こそがグループホームの良さであり、できる限りの支援は実施している。</p>	
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>入居者からの要望や必要性について、それを吸い上げる体制はあるが、現実には事業者が主体となって行っている。双方の協力体制からは少し離れている。</p>	<p>○</p> <p>支援についての方向性を再考していくこととします。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他の事業者やケアマネとの入居者サービスに関しての話し合い等はまったくしていないのが現実である。その必要性について再考の余地が十分にあるようです。</p>	<p>○</p> <p>支援についての方向性を再考していくこととします。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括センターとの繋がりはない。地域密着型サービスとしてはこの点に関しての努力が欠けている。</p>	<p>○</p> <p>地域包括センターとの間で、どのような協働ができるのか、他のグループホームの実際を見ながら、まずゆり苑でできることを探していくこととします。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族のお話を聞きながら、長年お付き合いのあったかかりつけ医との関係を大切に継続してお付き合いできるような支援に努めている。	○	遠方のかかりつけ医との関係作りが問題です。家族が今までの関係を大切にしたい意向のときには、関係を維持できるよう支援していますが、受診に関しては、家族にお連れいただいているのが現状です。家族の負担について考える余地が十分にあります。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医療法人の強みであり、専門医との話し合い、相談の場を確保がとてもしやすい環境です。この点を活かして十分支援を行っています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問介護ステーションを併設している関係で、看護師との日常的な関わりが自然に生まれています。この点を活かした支援をしています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院と同時に協力病院との早期退院に向けての話し合いを始め、職員の入院先への訪問も含めて、入居者に与える入院というダメージを最小限にして退院に繋げるように連携しています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、主治医とホーム管理者ならびに介護責任者との話し合いを繰り返し、終末期の方針を決定している。	○	将来の方針決定が職員の介護力に左右される面が残っている。協力いただける専門職との連携を生かすためにも、重度化した入居者への職員の適切な介護力を将来的に高めていきたいと考えています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期への対応については、入居当初より、本人、家族、主治医とホーム管理者で大まかな方向について話し合っている。実際、その場面に出会った時には、再度、本人、家族、主治医、管理者で方向を確認し最終決定とします。	○	事業所として「できること。できないこと」の見極めが最終決定をする上での判断材料となります。「できること」を増やすように事業所としての努力が、今後の入居者の方向性に幅を持たせることとなると考えています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者を取り巻く環境の変化が入居者に与える影響について、家族には十分説明しています。それでも住み替え等を行うのであれば、入居者が受けるダメージを最小限にするような方策を最大限実施しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護には十分気を遣って対応している。しかし、この点で少々配慮に欠ける職員もあり、その都度注意を促しているのが現実です。	○	職員全員が同じような取り組みをしていくことが重要であることは十分理解している。完全実施しに向けた取り組みをしていかなければならない。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が思いや希望を表現するような環境作りに努めているが、実現可能なことと不可能なことがあります。まず自分の気持ちを表現する環境作りと、自分の思い、希望が叶うように職員は一緒に努力するように取り組んでいます。	○	自己決定した後の方向付けも職員が関わる大切な支援である。自分で決めたことを忘れてしまう入居者への働きかけの大きさに取り組まなければいけないと考えています。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに沿った対応を心掛けるようにしています。しかしすべてを実現することは不可能です。個人の思いや希望に実現のための優先順位はつけられませんが、できる限りの配慮のもとに支援しています。	○	まず本人の希望を聞くこと。本人に確認しながら進めていくという基本姿勢を、身につけていかなければならないと考えます。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個人の身だしなみ、おしゃれについては、本人の希望を第一に考え、できる限り望み通りになるような支援しています。訪問美容を利用していますが、希望者は行きつけの美容室を利用できるような支援をしています。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の日常生活動作のレベル低下に伴い、共同での食事作りに制約が生まれるようになってきました。しかし危険や事故が想定できるもの以外でのお手伝いをお願いしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族の意向、経済状況によって左右されるところがありますが、できる限りの支援を実施しています。糖尿病、アルコール禁、タバコ禁の人などが共同生活をしているために、ある程度の制約があることは本人との話し合いで納得いただいております。</p>	
56	<p>○気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>当グループホームで一番力点を置いている項目です。これこそ認知症高齢者の尊厳を遵守する基本的なことで絶対に崩してはいけないう支援で実施できている。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>曜日を決めての入浴です。以前は、希望に沿った入浴を実施して入浴を楽しんでいただいていたのですが、職員の負担増のため曜日を決めての入浴となってしまいました。</p>	<p>○ 職員の負担増をどのような形で軽減して希望に沿った入浴の実施ができるか。再考の余地は十分ありますが、現有の職員配置数と入居者状況を考えると頭が痛い項目です。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>実施できている。睡眠に関しても個別性を重視して安心して入眠できるような環境作りに努めています。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人ひとり入居者の生活歴、日々の言動に注目して、入居者は今何を思い、何を考え、何をしたいのかを常に考える姿勢を職員は身につけるよう努力しています。日常会話と笑顔のある生活が実現できるような支援を行っています。</p>	
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理のできる入居者がいないので、金銭所持は基本的には行っていません。しかし金銭を持っていないと安心できない方もおり、家族が金銭の紛失があっても了承していただける場合は許可しているのが現状です。</p>	
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>状況に合わせて実施をしている。なかなか希望に沿った外出支援には難しい面もありますが、家族の応援をいただきながら支援しているのが実情です。</p>	<p>○ 入居者の移動のレベル低下に伴い、職員と1対1での外出が基本となりつつあります。外出自体のあり方、その方法を根本的に考え直すことが今必要となってきています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に家族の支援をいただき実施しているのが実情です。職員が付き添って行きたい所に行く機会はずっとありません。	○	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、手紙を書いたり可能な入居者には十分支援してはいるが、それらができない入居者には適切な時に適切な支援ができていないかどうかは疑問です。	○	電話や手紙でのやり取りが適切にできない入居者にも、その機会を担保し支援していくことが実施できるような体制作りを考慮していくこととする。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	だれかれ関係なく気軽に訪問できる環境は出来上がっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	問題なく実施できている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	非常口を除いて館内は完全開放となっている。どうしても目の届かない外部に通じるドアだけが施錠した状態になっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	実施できている。入居者の暮らし方のパターンや動きを観察しながら、入居者が不安や困ったことがないか、それらによって安全が担保されない状態となっていないか把握に常時努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と考えられる事態に対し、職員が危険の回避に努めることが重要であり、危険な状態が観察されたときには、危険を回避するために通常以上に気を配ることで対応しています。	○	しかし入居者の状態はいつも一定ではありません。この点にいつも気を配り、観察し気づきといった感覚を常時持ち続けるような姿勢を忘れないように職員間で喚起しあうようにしています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故が起こっても対応できるように取り組んでいます。自己啓発、研修を通して必要な知識や経験を積み重ねていくことが大切で、終わりのないテーマとして取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>細かいマニュアルが不足していることは否認しません。これからも職員教育を続けながら、その時何が職員に求められているのかを的確に判断できるような人材の育成を続けていきます。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>運営法人が医療法人であり、なおかつ事故時には運営法人からの援助を貰える体制があるため、かえって当該項目が達成できない甘えがあります。改善の余地が十分にあります。</p>	<p>○</p> <p>入居者急変時の対応について、運営法人から医師、看護師の派遣を依頼して、必要な訓練を計画的に行っていくこととしたいと考えます。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>緊急時の対応やリスクマネジメントが、事業所にとって足りないところ。危険の回避と分散について、早急に内部、外部との調整に入らなければと考えています。</p>	<p>○</p> <p>運営推進会議等の早期実施により外部との調整を早急に進め、内部的には危険の分散についてリスクマネジメントの研修を始めることとします。</p>
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>一人ひとりの入居者のご家族とは、リスクについて説明しております。一方的な説明で家族との話し合いにはなっていない点が多く、家族会を実施しながら、双方向での話し合いを進めていくことが求められています。</p>	<p>○</p> <p>家族会開催の日程調整問題です。個別でも実施していかなければならない状況です。早期に実施していきたいと考えます。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>入居者に対しての観察と気づきについて、情報を共有化しています。問題は職員の勤務シフトにおける勤務回数で共有化できる情報に濃淡が出てくる場所かもしれません。情報の共有化に管理者がもう少し加わって対応しなければと考えています。</p>	<p>○</p> <p>情報を共有化の段階で職員間にばらつきが見られます。連絡簿や管理者からの口頭での説明が共有化を進めていくのに必要と考えられます。</p>
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の副作用、用量についての理解が不足しています。病気を抱えた入居者への関心を喚起することで対応しています。</p>	<p>○</p> <p>職員ミーティング、カンファを通じて、薬について理解して貰うような取り組みを行っていくこととします。また薬についての情報をもっと身近なものとする取り組みも行っていく予定です。</p>
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりが便秘へについて理解しています。また便秘時の対応についても飲食物、運動を通して実施できています。排泄管理表、食事メニュー表、水分摂取表、摂取状況表等を通じて排便管理に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア、口腔ケアフォローには、職員一丸となって取り組んでおります。また訪問歯科医による口腔ケアに関するアドバイスも得ています。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	実施できている。食事については職員間での話し合いのもとに、継続的に一人ひとりに合わせた形で支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力医に感染症に関する判断を仰ぎ、必要な予防、対応に努めている。感染症についての知識を持つことが大切と考え、マニュアルを始め必要な情報を職員に伝達する仕組みはできている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、調理器具を消毒している。また食材についても、当日購入、当日消費を心がけ、長期の冷蔵、冷蔵保存や作り置きはしない。賞味期限、消費期限を明確化しての食事の提供に努めております。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	近隣の人が頻回に訪れることはありませんが、道路に面した1階はガラス張りになっており、興味のある近隣者、通行人が寄っていかれることがあります。特にこれといった工夫はしていません。	○	この建物は何なのかと中を眺めていく通行人もいます。そのような方々が気軽に寄っていただけるような工夫が必要なのかもしれないと思います。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が外部からの働き掛けを正確に理解できない状態、また不快と感じたことに対して適切な行動がとれない状態を、理解することが重要で、場面に応じて理解するようにしないと、よりよい空間作りはできないと感じています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	商業地に立地し敷地が狭いため、空間の利用に限度があります。 1人になれる空間は居室であり、仲の良い人同志で過ごす空間も居室となっています。入居者は、お互いの居室をうまく利用しあって、訪ねたり、訪ねられたりして居場所を作っています。	○	入居者間にトラブルが発生した時などは、特に独りになれる空間があればよいと思うことが多々あります。パーティションを設けるなど案は出ていますが現実的に難しいのが状況です。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初より、馴染みのもので居室を飾り、好みものを活かすなど、本人が過ごしやすい環境作りをして貰っています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の状態に合わせた温度管理、湿度管理をしています。不快な臭いがないよう換気に注意している。特に尿臭、便臭等については、身に付けてしまったり、室内に漂わしてはいけないことを高齢者の尊厳の見地からも理解しています。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者ができることはしていただくことを基本としています。しかしトラブルや事故が予想できることについては、安全を第一に考え、本人に説明して納得の上で制限することがあります。自立した生活が送れるようにいろいろな工夫を試みています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	基本は、本人に確認をしながら一緒に行う職員の姿勢が、入居者の力を発揮させ、混乱のない行動に結びつくものと考えます。この点を理解して入居者と向かい合って暮らしております。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	立地条件上、建物の周りやベランダを楽しむだけの空間がありません。代わりに、屋上を使って活動しています。屋上散歩や屋上から外の風景を眺めながらいろいろと感じていただいております。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="checkbox"/>	③たまにある
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/> ②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		<input checked="" type="radio"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている
		<input type="radio"/> ②少しずつ増えている
		<input type="radio"/> ③あまり増えていない
		<input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		<input checked="" type="radio"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

当グループホームで、一番力点を置いているのは排泄への支援です。利用者の排泄パターンを確認し排泄での失敗を最小限にしてオムツをしなすむよう、職員が一丸となって支援に努めています。排泄への支援は、人間の尊厳を守る基本線であると認識して介護に当たっています。

最近入居された認知症高齢者の方の排泄パターンが今ひとつつかめず、入居後2週間を過ぎましたがオムツがはずせません。この方の排泄パターンをつかみ、オムツをはずし、トイレで気持ちよく排泄ができるようにすることに職員は全員で取り組んでおります。オムツを使用している入居者は現在この方のみです。